

学生による福井空襲デジタルアーカイブ

-G空間情報で地域の戦争記憶を未来へつなぐ-

福井県立大学
ジオアーカイブ部

キーワード

福井空襲 デジタルアーカイブ Web-GIS 戦後 80 年 平和学習

G 空間 EXPO2026「Geo アクティビティコンテスト」

学生による福井空襲デジタルアーカイブ

-G空間情報で地域の戦争記憶を未来へつなぐ-



福井県立大学 ジョアーカイブ部

福井新聞社

概要

福井県立大学の学生と福井新聞社が、福井空襲(1945年7月19日)の記憶を次世代へ継承するデジタルアーカイブを若い力で構築した。体験者への聞き取り、福井空襲史のデジタル化、G空間情報化を通じて、空襲被害を誰もがアクセス可能なWeb-GISで可視化・公開した。本サイトは今後、地域での平和学習・歴史教育に活用されることが期待される。

これまでの課題

原子爆弾投下や大都市空襲は、大手メディアが繰り返し、その戦争記憶を伝えるが、地方都市における戦災は注目されない。体験者の高齢化により、証言や資料の散逸リスクが高く、戦争記憶の伝承が大きな課題となっている。

当時の状況を、福井県立大学生の若い力で、福井空襲史をデジタルアーカイブとして作成・発信し、次世代へ戦争の記憶を広く伝える取り組みを行った。

福井空襲史をG空間情報化

独創性

アナログ資料を、G空間情報としてデジタルアーカイブ



戦争記憶を次世代へ継承

需用性

全国の地方で、風化が進む戦争記憶の保存ニーズに対応



学生主体の実践型活動

実用性

学生が調査・G空間情報化・可視化まで実施



平和教育の推進

公益性

戦争の記憶をG空間情報化し、WebGISで誰もがアクセス可能な平和教材を作成



※WebGIS画像は福井新聞社提供、福井市空襲被災図は福井市立郷土歴史博物館提供